

## 才能

「サクサク」—当セミナールームの2007年度の卒塾生も、無事高校受験を終えました。わずか6人でしたが、旭丘、千種、瑞陵、春日井、高蔵寺と、今年も全員が第一志望合格、うち一人は高蔵寺高校の新入生代表というおまけつきでした。高蔵寺は今年2名が受験しましたが、彼らは名古屋市上位校も十分ねらえる内申と実力でしたので、どちらかがトップ入学するのではないかと思っていました。予想通りのうれしい結果です。卒塾パーティーでの6人のはちきれんばかりの笑顔を見ながら、各々その才能を開花させてほしいと願いました。

さて、才能といえばそれに関連してもう一つ、うれしい報告が先日舞い込んできました。9年前の卒塾生で大学院の数学科に進んでいた男子なのですが、幾何の定理を発見し、現在アメリカに論文を申請中だということです。旭丘でも東海でもなく春日井東に進学した彼ですが、中2で入塾してきた当初は数学も「4」、先月書いた「パート崖っぷち塾生」の一人でした。入塾後、飛躍的に数学の力を伸ばし、クビのピンチを越え、1年後には数学で学年トップに躍り出ました。彼はまさに数学の才能があったわけですが、ここで言いたいのはそんなことではありません。才能とは、磨いてこそ初めて光るものだとすることを塾生諸君に強調しておきたいのです。あるテレビ番組での元プロ野球選手金村さんの言葉が印象深かったので御紹介します。

「もし神様が自分にイチローと同じ才能を与えてくれると言っても断るよ。めちゃくちゃ自主練していた。とてもあんな努力は自分にはできない。やりたくない。」

華やかな結果の陰には、地味で泥くさい膨大な量の基礎練習が存在します。学年トップの子が、大嫌いな暗記勉強を我慢してやっている姿を想像したことがありますか。自分とは違う人種だから軽々こなしていると思っていませんか。「自分には才能がないから」と、努力しないことの言い訳にしたり、「いいなあ、才能があって」と、その努力をおもんばかることなくうらやんだりすることは、もう一切やめなさい。先述の定理を発見した彼も、山ほどの基礎計算と応用演習をこなし、苦手な英語も頑張ったからこそ今があるのです。一人一人、どんな才能が眠っているかわかりません。でもこれだけは言えます。どんなにすばらしい才能があったとしても、磨かなければ絶対に錆びます。努力なく才能が開花するほど人間甘いものではありません。今、世の中には才能を埋もらせたままの人間のほうが多いのではないのでしょうか。

当塾はあなたの才能を磨くための最高の道具はそろえてあり、磨き方も熟知しております。

さて、もし神様に才能を与えられたとしたら、あなたはイチローになる覚悟はありますか。